

▲▽海の道▲▽ ④ 徳島といえば阿波踊り

400年以上の歴史を持つといわれる阿波踊り①

起源については諸説あり、広く知られているのが、1585年に蜂須賀家政によって徳島城が落成した際、祝賀行事の無礼講として城下の人々が踊ったとする「築城起源説」。また、鎌倉時代の踊り念仏が盆踊りとして伝わり、さまざまな形で変化した「盆踊り説」もある。真実は不明だが、江戸時代には徳島城下の盆踊りとして存在していた

-江戸時代-

盆踊りは「組踊り」「ぞめき踊り」「^{にわか}俄踊り」の3形態があり、徳島城下ではせりふや音楽などで構成される歌舞劇「組踊り」が主流となっていた。「組踊り」が登場する最古の史料は、1756年の御触書で「組踊りを禁止する」というもの。

徳島藩では、踊りの熱狂が一揆につながることを懸念し、武士が庶民の踊りに参加するのはタブーとされた。町内が毎年趣向をこらすため華美・豪奢になりがちな「組踊り」は、奢侈禁止(贅沢を禁止して儉約を推奨する)の立場である番として認めるわけにいかず、しばしば組踊りを禁止している。

▽「ぞめき踊り」

鳴物(三味線・鉦・太鼓・笛などの楽器)に合わせて数人が輪になって踊るもので、江戸時代後期から流行し、二拍子の軽快なリズムは、奄美大島・八重山の「六調」や、沖縄の「カチャーシー」など、南方由来のリズムとも共通する部分があり「ぞめき踊り」には各地のさまざまな踊りの要素が取り入れられている。藍商人が文化交流の担い手として各地の踊りや音楽を徳島に持ち帰り、時代ごとに変化しながら、徳島ならではの伝統芸能として定着したのだろうか。

▽「俄踊り」

諸国で流行していた民衆芸能で、即興の寸劇。徳島城下では藍商人が歌舞伎風や人形浄瑠璃の人形風の衣装で寸劇を披露していた。1844年の記録には「市中組踊りわずか、俄多く、ぞめき例年通り」とあり、幕末には「俄踊り」と「ぞめき踊り」が中心になっていたことが記されている。

「海員だより」